

# 住宅における侵入窃盗対策

住宅における侵入窃盗は、次の3つの手口をいいます。

## 空き巣

家人が留守の住宅に侵入し、金品を盗む犯罪をいいます。



## 忍込み

夜間、家人の就寝時に住宅に侵入し、金品を盗む犯罪をいいます。



## 居空き

家人が昼寝や食事をしているときに住宅に侵入し、金品を盗む犯罪をいいます。



住宅に侵入する泥棒の中で一番多いのが「**空き巣**」です。

泥棒は常に侵入しやすい家を探しています。家の周囲の状況を入念に下見して、人目につかず侵入できるよう周到に準備します。下見の際に泥棒が最も気をつけて見るのは、家人が留守かどうかだと言われています。

具体的には、

- ・郵便受けに新聞や手紙はたまっていないか
- ・雨戸やカーテンは閉めきっていないか
- ・日が暮れても玄関や室内の電灯が消えていないかなどを下見しています。



また、侵入口として多いのは、戸建住宅では窓、共同住宅では窓又は玄関で、県内で発生した空き巣被害の半数が**施錠されていない**ところから侵入されています。また、**ガラス破り**も多く発生しています。

そこで、泥棒に入られないために、自宅を泥棒の目線でチェックしてみましよう。ねらわれにくい家にするための防犯上のポイントが見えてきます。

# 空き巣にねらわれにくい家



## ポイント1 確実なカギかけ

外出するときは、玄関だけでなく、キッチンの窓や高窓などの小さな窓もすべて鍵をかけましょう。

平成23年に県内で発生した空き巣の約5割は無施錠で被害に遭っています。カギかけを徹底するだけでもかなりの被害を防止できますが、補助錠等を設置すると、より効果的です。

また、郵便受けや植木鉢の下などに**合鍵を置かない**ようにしましょう。



## ポイント2 侵入されにくい工夫を

### ■見通しのよい家にする

外から見通せない家は、泥棒にとって好都合です。泥棒は必ずと言っていいほど、塀や植栽など**死角となるものがあるか**どうかを下見しています。なぜなら外からの見通しが悪い家は、泥棒が侵入しても発見されにくいからです。

プライバシーとの兼ね合いはありますが、防犯上はブロック塀や植栽を低くしたり、柵に替えることで見通しを良くすることが肝心です。また、ベランダやバルコニーの腰壁もできるだけ死角をなくしましょう。外から見通しがよく、泥棒が入りにくい家だと思わせることが重要です。

### ■侵入の足場を作らない

バルコニーや高窓の周囲に、**足場**になるようなものはありませんか？ 出窓の屋根・ひさし、塀、雨樋、物置、給・排水管、車庫の屋根、エアコンの室外機、背の高い樹木、バルコニーを支える柱などは泥棒が家に侵入するための足場にもなります。侵入するための足場を作らないことが肝心です。



### ■侵入しやすい箇所の窓を守る

侵入口で多いのは、掃き出し窓（室内のゴミを外に掃き出すために床に接して作られた窓）などの「窓」です。鍵が掛けられていてもガラスを割って侵入します。

さらに植栽やブロック塀で見通しが悪いと、掃き出し窓は最も侵入しやすい場所になってしまいます。

### ■侵入までに5分以上かかるようにする

侵入までに5分を超えると、泥棒の約7割があきらめるという調査結果があります（(財)都市防犯研究センターJUSRIレポート）。そこで、対策としては、防犯性能が高い部品に交換する、補助錠やセンサーアラームを取り付ける、防犯フィルムを貼ってガラス面を強化する、といった対策が効果的です。



### ■浴室やトイレの窓に注意！

人目につきにくい場所にある窓には、補助錠、面格子などを取り付けましょう。ただし、面格子があるからといって安心するのは危険です。面格子がある窓でも、泥棒は無施錠の窓をねらって侵入します。窓の施錠は確実にしてください。



## ポイント3 防犯設備を取り付ける

泥棒が犯行をあきらめた他の理由としては、「セキュリティシステム」、「防犯カメラ」、「センサーライト」などの存在も多くなっています。光や音で侵入者を威嚇するセンサーライトや、侵入すると直ちに通報されてガードマンが駆けつけるホームセキュリティなどの防犯システムは、泥棒にとって心理的な抑止効果が大きいといえます。



また、庭を音が出やすく、歩きにくい「砂利敷き」にしたり、「門灯」や「玄関灯」で家の周りを明るくするなど、さまざまな防犯対策があります。

「室内に多額の現金を置かない」「通帳・印鑑は別々の場所に保管する」「カードの暗証番号は簡単に想像がつくような生年月日や電話番号にしない」など、まずはできることから始めてみましょう。

## ポイント4 留守と悟らせない

空き巣に入る場合、泥棒が最も気にするのは、**家人が留守かどうか**です。留守であることを泥棒に悟られないために、次のような対策をしましょう。

### ■電灯

日が暮れて玄関や室内の電灯がついていないと、留守であることがわかってしまいます。帰りが遅くなる時は、あらかじめ消費電力の少ない、キッチンなどの電灯をつけて外出すると効果的です。

### ■郵便受け

新聞や手紙がたまっていると、しばらくの間留守であることがわかってしまいます。旅行などで数日留守にする場合には、必ず新聞を止めるか、ご近所の方に置き置きしてもらいましょう。

### ■インターホン

泥棒が留守を確認するための最も多い手段は、インターホンを鳴らすことです。玄関に出て、誰も居ないことがあれば泥棒の下見行為かもしれません。在宅時にこのようなことがあった場合は、不審者がいないかどうか注意しましょう。また、録画機能付きのインターホンを設置すると来訪者の画像を保存することができるため、留守の場合にも有効です。



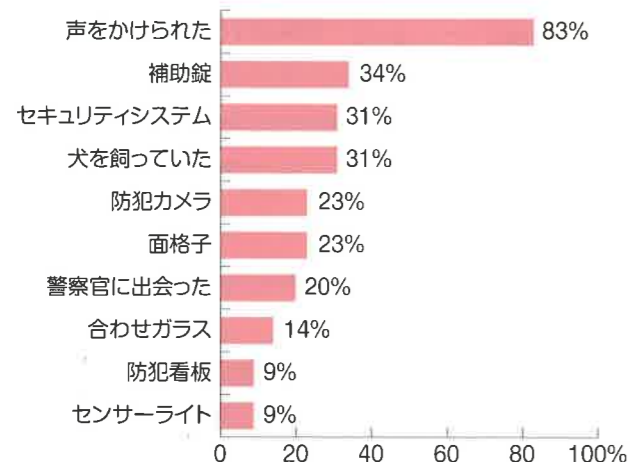
## ポイント5 近所づきあいをよくする

泥棒が犯行をあきらめた理由では、「声をかけられた」ことが最も多くなっています。捕まることをいつも警戒している泥棒は、通報されることを気にしているため、**声をかけられたり、ジロジロ見られる**ことを最も嫌います。

また、指定日以外にゴミが出ているような地域では、地域住民のモラルや連帯感が乏しく見えるため、泥棒にとって「仕事がしやすい」といったすきを与えてしまいます。

家をのぞき込んでいる不審者に声をかけたり、気軽に留守を頼める、普段からの近所づきあいが犯罪から私たちを守ってくれるのです。

泥棒が犯行をあきらめる要素



財団法人都市防犯研究センター「防犯環境設計ハンドブック」を参考に作成

忍込み・居空きも侵入窃盗ですが、恐ろしいのは家人と鉢合わせになったり、家人に気づかれた時に居直って強盗と化して傷を負わせたり、命まで奪ってしまうことです。

忍込み・居空きに気づいたら、慌てず騒がずにそっと警察に通報することが、我が身を守る秘訣です。

## 家庭の防犯チェックシート

### 一戸建て住宅の場合

- 木々は、こまめに伐採したり、塀は低くして、死角をなくすようにしている。
- 窓ガラスは、破壊に強い防犯ガラス（防犯フィルム）にしている。
- 補助錠を取り付けている。
- 2階への侵入経路となる足場をなくしている。
- 人が近づくと点灯するセンサー付ライトを設置している。
- 見知らぬ人にもあいさつして近所で守りを固めている。
- 短時間の外出でも、玄関の鍵をきちんとかけている。
- 玄関・勝手口は主鍵と補助錠のワンドア・ツーロックにしている。

ドアや鍵は「防犯性能の高い建物部品」にしましょう。  
ホームページ  
<http://www.cp-bohan.jp>

### マンションの場合

玄関側

- 玄関はワンドア・ツーロックにしている。
- ドアの内側には、サムターンカバーを取り付けている。
- 簡単にはずせない面格子を取り付けている。
- 短時間の外出でも、玄関の鍵をきちんとかけている。

窓側

- 屋上の出入りを制限している。
- 窓ガラスは、破壊に強い防犯ガラス（防犯フィルム）にしている。
- 補助錠を取り付けている。